

2020年4月7日
大王製紙株式会社

三島工場 N7 号板紙抄紙機稼働について

大王製紙株式会社（住所：東京都千代田区）は、多様なパルプを活用して複数の紙・板紙が生産できる三島工場（愛媛県四国中央市）において、スイングマシン（複数品種を生産可能な抄紙機）の特性を活かし、これまで市場の需要動向の変化に柔軟に対応してまいりました。

2018年5月に公表した当社第3次中期事業計画では、紙・板紙事業の構造改革として「メディア用途の紙」から「梱包・包装用途の紙」へのシフトを掲げ、この取り組みの一環として、洋紙の製造設備である N7 号抄紙機を 2019 年 10 月に停機し、需要が堅調な板紙への設備改造工事を進めておりました。このたび改造工事が完了し、予定通り 4 月 1 日より営業運転を開始しましたのでお知らせいたします。



〈N7 号板紙抄紙機〉



〈三島工場〉

1. 設備の概要

- 1) 設備 : 三島工場 N7 号抄紙機（板紙 生産能力：月産 25,000 トン）
- 2) 生產品種 : 板紙
- 3) 設備投資額 : 約 200 億円

2. 今後の展望

N7 号板紙抄紙機は、国内トップクラスの生産性を有する生産設備です。加えて臨海立地の三島工場のインフラの優位性を生かして、今後 経済成長によって段ボール需要の安定的な伸長が見込まれる中国・東南アジアマーケットをターゲットに、次の通り輸出での拡販に重点を置いて取り組む方針です。

1) 輸出版売について

- (1) 特に、需要が日本の約 5 倍（3,800 千トン/月）と旺盛で、古紙輸入の規制により板紙生産がひっ迫する中国を中心に輸出版売を拡大していく。

(2) 製品は、アジア諸国で需要が高まる破裂強度が高い板紙等のハイグレード品を主体に生産・販売していく。

2) 三島工場の優位性について

(1) 三島工場は世界最大級の臨海製紙工場であり、国際貿易港に隣接していることで、中国をはじめとするアジア諸国への物流コストに優位性がある。

(2) ハイグレード品の輸出を見据えた改造を施した N7 号抄紙機は、三島工場のコスト競争力の高いパルプやエネルギーに加え、古紙の高度利用等、高い生産技術・管理ノウハウを活かし、国内屈指の競争力を有する板紙の製造設備である。

(3) 難処理古紙を活用し、木材繊維はマテリアルリサイクル、ビニール等の廃棄物はサーマルリサイクルにより、ゼロエミッションを実現する。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

大王製紙株式会社

新聞・洋紙事業部 兼 産業用紙・段ボール事業部 営業推進部

松原 TEL : 03-6856-7533